

保育者養成のための音楽表現技術における 学生の学び

鶴 巻 保 子

Students' Learning through Musical Expression Skills
for Child Care Workers

Yasuko Tsurumaki

保育現場の音楽活動でもっとも一般的なものとして「歌う」ことが挙げられ、「歌う」活動はさまざまな手段や目的で行われている。言うまでもなく主体となるのは子どもであり、子ども自身の中から生まれてくる表現意欲に目を向けることが肝要である。遊びの中にある歌やからだの動きを伴う歌は子どもの音楽表現の可能性を感じさせるものであり、子どもの歌いたい思いを引き出し、歌唱意欲を高めていく保育者の弾き歌いやピアノ伴奏、及び音楽表現指導はとても重要なものとして位置づけられている。筆者は「歌う」活動をめぐる諸相が立体的であり、「歌う」という音楽の基本となる行為から生まれる音楽表現の複合的な絡み合いと広がりをもますます感じるようになった。

本稿は音楽（表現技術）の授業で行っている「歌唱」に着目し、学生たちのアンケート調査とレポートに基づき、保育の音楽に対する学生たちの意識と学びについて授業の成果を検討した。その結果、学生は「歌う」ことを基本とした活動を通して音楽表現と創作表現の必要性を捉え、その楽しさを実感できたこと、音楽表現の幅を広げるために役立ち、将来、保育の現場に生かそうとする考えが示唆された。

Key Words: [歌う] [音楽表現技術] [楽しむ] [共感] [子どもの歌]
[創作音楽劇あそび]

(Received September 24, 2011)

I. はじめに

表題の示すように本稿は「保育者養成のための音楽表現技術」における学生の学びをまとめたささやかな研究ノートである。

平成23年度より保育士養成課程の改正に伴い、子どもの音楽表現「基礎技能」が「保育の表現技術」と名称変更された。そこには子どもの音楽表現を引き出し、もっと幅広く子どもの表現したい気持ちを伸ばし、子どもの表現を十分に受け止めることのできる保育士が求められて

*鹿児島純心女子短期大学生生活学科子ども学専攻（〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号）

いる現実が示唆されている。保育の音楽表現について、平成元年、「幼稚園教育要領」改訂によって領域「表現」についての重要性が問われるようになり、「音楽」の意味を捉え直す契機となった。領域「表現」の冒頭では「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」¹⁾音や音楽との出会いや触れ合いを保障し、子ども自身の表現を捉えることが求められている²⁾。そのために子どもの表現の姿をどう捉えていくのかが問われている。音楽という広い領野を、子どもを出発点に置き、人としての育ち、豊かな表現の育ちにどのような意味を持つのか、「保育における音楽とは」「表現として捉える音楽」の探求はより深いものとなる。

ところで、幼稚園教諭免許状と保育士資格、あるいはそのどちらかを取得するためには、専門教科実技系の保育の音楽表現技術とピアノ技法は必修科目として位置づけられている。それは子どもの音楽活動は生活と密接に関わりを持っているからである。子どもはみんなで歌を歌ったり、楽器を演奏したり、音楽に合わせて身体表現をする活動のほか、生活の中で、ごく自然な遊びとして、絵を描きながら口ずさんだり、聞こえてくる音楽に合わせて身体を揺らしたり踊ったりする。このように子どもは音と出会い、音の創造を楽しむ経験から、音を感じ、表現活動を展開させていく。このような子どもの音楽表現の芽生えに気づき、受け止め、共感できる感性が保育者に必要である。そのためには、保育者自身が歌を歌う、音楽を聴く、音楽を表現する楽しさや喜びを体験し、その体験に裏づけられた豊かな感性をもっていることが前提となる。

本稿では、種々の音楽表現の中でも「歌う」ことに焦点を置き、子どもの歌を題材とした創作音楽劇あそびにおける学生たちの学びや意識の変化を検討し、授業の取り組みを内省的にまとめ、今後の授業の指導のあり方を探るものとする。

Ⅱ. 音楽科目の概要

本学の保育士、幼稚園教諭養成課程で開講されている音楽関係の科目は以下の通りである。

- (1) 音楽Ⅰ (1年前期) 必修 保育の表現技術
- (2) 音楽Ⅱ (1年通年) 必修 ピアノ技法
- (3) 音楽Ⅲ (1年前期) 選択 (楽典基礎)

学生は上記の音楽関係科目をすべて1年次に履修する。筆者の担当する上記の授業の「音楽Ⅰ」保育の表現技術の取り組みと学生の学びについて述べることにする。

この授業では「歌唱の基本となる発声、音程感、リズム感、ハーモニー感を学び、一人ひとりの子どもの真実なところを育む子どもの歌のレパートリーを広げる」ことをねらいとし、次に「さまざまな音楽表現力を習得し、保育の現場で展開できる創造性を養うこと」を到達目標としている³⁾。したがって声楽の基礎練習を行い、子どもの歌を題材に、斉唱、合唱、輪唱、あそびうた、わらべうたを学び、これらを組み合わせた総合表現として創作音楽劇あそびを発表するという流れを取った。(表1)

授業形態：2クラス (Aクラス34名、Bクラス33名) に分けて行う。

テキスト：『うたとあそび』（鹿児島市私立幼稚園協会編），1999年。

他に楽譜，資料は授業ごとに配布をしている。

表1 音楽表現技術の概要

項目	内容
1. 呼吸法，発声法	授業の初めに行う。腹式呼吸を意識した簡単な発声練習。
2. 斉唱	歌唱技能の向上と幅広い子どもの歌を受容する。子どもの歌（季節の歌，生活の歌，テレビソング）
3. 合唱，輪唱	音程，リズムの技能の向上とハーモニー感を味わう。「かえるの合唱」輪唱，コダーイハンガリーのわらべ歌より「きつねとたぬき」2部合唱。
4. 手あそび わらべうた	リズムに合わせた身体表現の基礎として身振り，手振り，語りかけ，コミュニケーション方法，身体を触れ合う遊び，リズム感，フレーズ感，集団で遊ぶ楽しさ，わらべ歌の音楽的特徴。
5. 創作音楽劇あそび	上記の学びを応用して身体の動きを伴った音楽表現をグループ発表し，相互に鑑賞する。

Ⅲ. 子どもの歌

保育者をめざす学生にとって，さまざまな子どもの歌を学ぶことは重要である。そのため，1年前期という限られた授業時間の中で，できるだけ多くの歌に親しんで歌えるよう授業を進めている。学生は知らない歌でも，読譜をし，正しい音程練習を行うと割りあい早く歌唱することができる。ところで本学の学生は，子どもの歌をどのくらい知り，親しんでいるだろうか。日頃の授業で子どもの歌をあまり知らない，あるいは関心のある子どもの歌への偏りを感じている。例えば「音楽Ⅱ」ピアノ技法で弾き歌いの曲を簡易伴奏譜による「さんぼ」（「となりのトトロ」より中川李枝子作詞・久石譲作曲）と「まっかな秋」（薩摩忠作詞・小林秀雄作曲）を選曲させるとほとんどの学生は「さんぼ」を選ぶという事例が挙げられる。そこで今回，第1回目の授業の最後に，学生が子どもの歌をどのくらい知っているかを3つの質問に分けて，1年生67名を対象にアンケートを行った。テキスト『うたとあそび』の内容は，①1学期，2学期，3学期に分類し，季節のうたと子どもの歌（131曲），②生活指導のうた（15曲），③集団あそびのうた（29曲）の順に175曲が編集されている。授業では，これらの中から①季節の歌・子どもの歌から若干に絞って選曲し，そのほか，テレビソング，アニメソングなどのジャンルからも季節感，曲想を考慮して取り入れている。

アンケート1

質問1 『うたとあそび』の1学期～3学期に挙げられている「季節の歌・子どものうた」中から52曲を選曲し，（表2）回答する際，『うたとあそび』については，楽譜または歌詞を見ながら記述した。

記入法 ○知っている △聞いたことがある ×知らない

質問2 テレビソング（NHKおおかさんといっしょ，みんなのうた，アニメソング）（表3）

記入法 ○知っている △聞いたことがある ×知らない

質問3 今，思いつく子どもの歌 自由回答（表4）

表2 『うたとあそび』より

曲名	A 知っている		B 聞いたことがある		C 知らない		曲名	A 知っている		B 聞いたことがある		C 知らない	
	人数	%	人数	%	人数	%		人数	%	人数	%	人数	%
せんせいとおともだち	23	34	8	12	36	54	とんぼのめがね	67	100	0	0	0	0
お花が笑った	16	24	16	24	35	52	かわいいかくれんぼ	3	4	2	3	54	93
めだかの学校	67	100	0	0	0	0	お話し指さん	36	54	8	12	23	34
ふしぎなポケット	62	93	0	0	5	7	森のくまさん	67	100	0	0	0	0
こいのぼり	67	100	0	0	0	0	おすもうくまちゃん	4	6	0	0	63	94
こたりの歌	33	49	4	6	30	45	こぶたぬきつねこ	66	99	0	0	1	1
お母さん	36	54	9	13	22	33	まつぼっくり	38	57	15	22	14	21
ぞうさん	67	100	0	0	0	0	どんぐりころころ	67	100	0	0	0	0
アイアイ	67	100	0	0	0	0	線路は続くよ どこまでも	67	100	0	0	0	0
かえるの合唱	67	100	0	0	0	0	山のワルツ	6	9	4	6	57	85
あめふりくまのこ	26	39	6	9	35	52	バスごっこ	38	57	12	18	17	25
かたつむり	64	96	0	0	3	4	犬のおまわりさん	67	100	0	0	0	0
時計のうた	22	33	6	9	39	58	まっかな秋	55	82	7	10	5	8
おおきな古時計	67	100	0	0	0	0	たき火	64	96	0	0	3	4
お使いありさん	45	67	2	3	20	30	お正月	67	100	0	0	0	0
ありさんのお話	6	9	4	6	57	85	すうじの歌	32	48	2	3	33	49
しゃぼん玉	67	100	0	0	0	0	たこの歌	6	9	17	25	44	66
うみ	65	97	0	0	2	3	雪	67	100	0	0	0	0
七夕さま	67	100	0	0	0	0	北風小僧の寒太郎	67	100	0	0	0	0
南の島のハメハメハ大王	66	99	0	0	1	1	おもちゃの チャチャチャ	67	100	0	0	0	0
とんでったバナナ	30	45	5	7	32	48	やぎさん郵便	66	99	0	0	1	1
お化けなんていないさ	62	93	0	0	5	7	うれしいひなまつり	67	100	0	0	0	0
こおろぎ	3	4	8	12	56	84	そうだったら いいのにな	44	66	14	21	9	13
せみのうた	2	3	2	3	63	94	うぐいす	0	0	2	3	65	97
おなかのへるうた	46	69	7	10	14	21	一年生になったら	67	100	0	0	0	0
お月さま	17	24	6	9	45	67	思い出のアルバム	64	96	0	0	3	4

各表の%は小数点以下第一位を四捨五入

質問2

表3 テレビ・アニメソングより

曲名	A 知っている		B 聞いたことがある		C 知らない		曲名	A 知っている		B 聞いたことがある		C 知らない	
	人数	%	人数	%	人数	%		人数	%	人数	%	人数	%
あ・い・う・え・おにぎり	27	40	0	0	40	60	こんなこいるかな	1	1	4	6	62	93
アイスクリームのうた	35	52	8	12	24	36	どんな色が好き	37	55	4	6	26	39
あしたははれる	10	15	1	1	56	84	にじのむこうに	58	87	6	9	3	4
いっぱいでもにんじん	25	37	4	6	38	57	にんげんていいな	67	100	0	0	0	0
おはようクレヨン	1	1	0	0	66	99	ハッピーチルドレン	0	0	0	0	67	100
かめの遠足	0	0	0	0	67	100	ぼくのミックスジュース	26	39	9	13	32	48
きのこ	2	3	1	1	64	96	勇気100%	52	78	0	0	15	22

質問3 自由記述

記入者 31名 (一人複数曲記入も含む)

表4 今、思いつく子どものうた

曲名	人数	曲名	人数	曲名	人数
ジブリの歌	2	すてきな言葉	1	ありがとのお花	1
アニメソング	2	だんご三兄弟	1	ピクニック	1
さんぽ	4	勇気りんりん	1	きらきらぼし	1
トトロ	4	手のひらを太陽に	1	キリンさん	1
アンパンマンマーチ	4	ぼよよん行進曲	1	こぎつね	1
ドラエモンのうた	3	くものしま	1	むすんでひらいて	1
おどるポンポコリン	2	すすめがサンバ	1	大きな栗の木の下で	1
おじゃるまる	2	ごめんくださいめんどください	1	メリーさんのひつじ	1
ドレミの歌	2	さよならぼくたちのようちえん	1	ちょうちょう	1
そらにらくがきかきたいな	1	とんとんとんとんひげじいさん	1	ぶんぶんぶん	1

考察

質問1～質問3の集計結果を概観する。表2から「うぐいす」(林柳波作詞・井上武士作曲)は全く知られていない,「せみのうた」(佐藤義美作詞・中田喜直作曲),「かわいいかくれんぼ」(サトウハチロー作詞・中田喜直作曲)は2名,「こおろぎ」(関根栄一作詞・芥川也寸志作曲)は3名が知っていると答え,ほとんど知られていない。歌詞の内容が季節感,自然を表す童謡が歌われることが少なくなっているため親しみが薄いことが示される。自然の風物や四季を歌う歌,動物,昆虫,植物などが歌詞に織り込まれている歌は幼児教育にとっても重要な教材であり,将来,学生が園生活の中で保育者として,歌を歌い,子どもたちに共感できる歌の指導をするためにも必要と考える。表3,表4からは,テレビから流れるアニメやジブリの「明るい」「愉快」「元気」な歌に馴染みがあるということが窺える。テレビアニメ「まんが日本昔話」のエンディ

ング「にんげんていいな」(山口あかり作詞・小林重星作曲)は全員が「知っている」と答え、NHK〈おかあさんといっしょ〉で放送された「にじのむこうに」や(坂田修作詞・作曲)同じくNHK〈みんなのうた〉で放送された「アイスクリームのうた」(さとうよしみ作詞・服部公一作曲)も人気のある作品である。筆者は保育の現場で使用される歌に即応し、応用できるよう心がける一方、保育者が第二の環境として重要な存在であることを学生に喚起している。さらに歌をとおして身近な自然環境の美しさに触れ、子どもと感動を共有することにつなげていく意識付けが重要であろう。

IV. 創作音楽劇あそび

1) 目的

保育において歌う活動は、「歌う」という独自の活動とリズム運動やあそび、身体表現や踊りを伴う活動が挙げられる。子どもの音楽表現の育みのために、音楽に合わせた身体表現の活動を取り入れることは有効である。したがってこれまで学習した歌唱と遊び歌を応用し、課題曲の子どもの歌をテーマとした物語をグループで創作する。この「創作音楽劇あそび」活動によって音楽表現の楽しみと幅を広げること、表現技術の授業の総合表現として発表会を行い、他のグループの表現を鑑賞することによって、様々な音楽表現の可能性を見出すことを目的とし、次の3点をねらいとして設定した。

- ① 物語の内容、登場人物にふさわしい曲想、音、音色を工夫して表現する。
- ② 歌うことと、身体表現、合奏も合わせて創造的な表現を工夫する。
- ③ 相互のコミュニケーションを行い、協力して創作する。

2) 創作方法

Aクラス、Bクラスとも5~6人のグループに分かれ、各グループ10分程度で演じる創作音楽劇として取り組む。テーマ曲は筆者が指定し、グループのテーマ曲は抽選によって決定した。テーマ曲は授業で扱った曲であり、ピアノ伴奏譜付の楽譜を授業時に配布している。演出法は「ドラムジカ」⁴⁾からヒント得た。ストーリーは歌と歌をつなぎ合わせて作る。テーマ曲の意味内容を展開させ、日常親しんで歌っている歌や聞かせたい曲などを盛り込んでストーリーを作り、歌や合奏、音による表現を共演する表現法である。背景、小道具、衣装、装飾には身近な素材を使う、あるいは再利用する。授業ではこの活動以外の学習もあわせて行うので、企画および授業中での練習は3回とし、4回目に発表を行うという授業計画である。したがって授業以外での準備、練習が必須である。尚、発表は第12週から第14週にかけて2グループずつとした。

各グループにテーマ曲やその他の実用曲をピアノ伴奏のできる学生を配慮し、グループ編成をした。各グループは一部、企画書を作り提出する。企画書には、グループメンバー名、ストーリーの内容とねらい、使用する小道具、楽器(ピアノのほか)、配役を表記する。対象年齢は4~5歳である。(企画書の内容概略は表5)

表5 発表した曲と内容概略

班	テーマ曲 挿入曲・楽器	内 容
A 1	おはようクレヨン 南の島のハメハメハ大王 (替え歌)、 きらきら星 別れの歌 (ピアノのみ)	お絵かきの大好きな女の子。しかしこの女の子は、クレヨンを大切にせず、クレヨンたちは悲しんでいました。クレヨンたちは女の子の好きなピアノのおけいこのときに現れていっしょに歌いました。女の子はクレヨンとお友だちになり心が通い、クレヨンを大切に使うようになりました。
A 2	ぼくのミックスジュース 替え歌で	毎日、忙しい私たち。ミックスジュースに楽しいこと、いやなこと、疲れも、みんなの気持ちをミキサーにおち込んで、ググッと飲みほせば、今日はいいことがあります。
A 3	あ・い・う・え・おにぎり バスごっこ、こぶたぬきつねこ、 おべんとうばこ (てあそび)、キリンさん	今日は、お父さんとお母さんもいっしょに保育園の家族遠足で動物園に行きました。さやかちゃんは愛情たっぷりのとっても幸せな一日を過ごします。
A 4	虹のむこうに かえるの合唱、合奏: 鍵盤ハーモニカ、リコーダー、鉄琴、 小太鼓、ウッドブロック、ギロ	将来の夢を持たない6匹のかえるが梅雨明けに虹を眺め夢を探しに行きました。虹のむこうでかえるたちはそれぞれの夢を見つけ、みんなでその夢を語り合います。
A 5	ドロップスのうた グロッケン、木琴、トライアングル	雲の上に泣き虫の神様がいました。村人は神様を元気にしようと、空に向かってドロップスを投げます。雲の上はドロップスでいっぱいになりました。
A 6	山のワルツ Happy Birthdy to you, 時計のうた、合奏:タン布林、 トライアングル、ウッドブロック、 ギロ	シカ、リス、ヤギ、トリ、ウサギ、小鳥たちが幼稚園でみんな楽しく遊んでいます。まだクマちゃんが来ていません。今日はクマちゃんのお誕生日だというのに。朝寝坊したクマちゃんがようやく来るとお誕生会が始まります。
B 1	お化けなんてないさ アイスクリームのうた、 ふしぎなポケット、 マル・マル・モリ・モリ	夏休み、「早く寝なさい」とお母さんに言われましたが、お化けが出てきて眠れません。アイスクリームをあげたら、お化けとても仲良くなりました。歌ったり、踊ったり、お化けと楽しい夜を過ごしました。
B 2	こんなこいるかな おはようのうた、 南の島のハメハメハ大王、 おかえりのうた	チューリップ組には、泣き虫、いたずらっ子、食いしん坊、忘れんぼう、わがままっ子がいます。やさしい先生はみんなが大好きです。「ごめんね」「ありがとう」が言える子になっていきます。
B 3	あ・い・う・え・おにぎり ピクニック、 おべんとうばこ (てあそび))	今日は、家族みんなでピクニックに出かけました。お母さんの作ったお弁当はご馳走です。「みんなで食べるからおいしのだよ」とお父さん。みんな楽しい顔で歌っています。
B 4	どんな色が好き チューリップ、虹のむこうへ、うみ、 南の島のハメハメハ大王	クレヨンになった私たちは旅行に行って、出会った自然たちに歌をうたいながら色を塗っていきます。太陽、空、花、やしの木、海、人間に。でも途中で思わぬハプニングが起こります。最後はどうなるのかな。心温まるステキな結末です。
B 5	勇気100% ふしぎなポケット、 世界がひとつになるまで、鉄琴	しんべいはいつもお団子ひとりじめしてしまう子。ある時、しんべいの分のお団子がありませんでした。みんなは分けてあげなかったけれどおしげちゃんがそっと分けてくれました。しんべいは反省します。「ありがとう。いままでごめんね」と言います。
B 6	にんげんていいな こぶた、たぬき、きつね、ねこと森のくまさんもいっしょに人間の 世界に入ってきて遊んでいます。お帰りの時間、7時になると 森のくまさん	こぶた、たぬき、きつね、ねこと森のくまさんもいっしょに人間の世界に入ってきて遊んでいます。お帰りの時間、7時になるとホカホカご飯が届いています。

V. 創作音楽劇あそびの学び

1) 目的

創作音楽劇あそびの発表を通して、学生がどのような体験をし、どのように感じているのかを発表会ごとに質問用紙に記入してもらい、発表と相互の鑑賞からの学びを検討することを目的とした。

2) 方法

アンケート2

<p>質問1 創作音楽劇あそびの発表で以下の質問に回答してください。</p> <p>(1) 楽しんで発表ができましたか。</p> <p>(2) 興味、関心を持って創作に参画しましたか。</p> <p>(3) 満足できる発表となりましたか。</p> <p>達成度 4段階</p> <p>① 十分達成できた ② ほぼ達成できた</p> <p>③ あまり達成できなかった ④ 全く達成できなかった</p>
<p>質問2 発表の感想, 反省点, どのように参画したか, など (自由記述)</p>

3) 結果

質問1

表6 質問1. (1)~(3)の集計結果

質問 項目キーワード	①十分達成できた	②ほぼ達成できた	③あまり達成できなかった	④全く達成できなかった
(1) 楽しむ	45名 (70%)	16名 (25%)	3名 (5%)	0名 (0%)
(2) 興味・関心	31名 (48%)	29名 (45%)	4名 (7%)	0名 (0%)
(3) 満足感	15名 (23%)	35名 (55%)	12名 (19%)	2名 (3%)

表7は学生の自由記述から項目別に類別し、それらの抜粋を表に挙げた。

表7 質問2. 学びと感想

項目	学び・感想
表現について 歌, リズム, 動き	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な子どもを表現でき、歌と踊りとせりふも加わって楽しめた。 ・歌う、リズムをとる、音楽に合わせ踊りを覚えるのは難しかったが、楽しく発表ができ達成感があった。 ・他の班の発表を見て、色々アイデアが工夫されて楽しかった。また各班の表現が違って発見できることがたくさんあった。 ・内容に合う他の歌や、手遊びも組み合わせてみんなで工夫して練習した。 ・テーマ曲以外歌を4曲使ったので見ているみんなも楽しめる内容になったと思う。 ・自分たちで作ったストーリーに合わせて伸び伸びと演じることができ楽しかった。 ・見ているみんなもいっしょに歌ってくれ、教室中が笑顔になったと感じた。
楽器について	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーの場面に合った効果音を見つけるのに苦労したが、色々な楽器の音色を発見できた。また効果音を出すときはとても緊張して鳴らした。 ・歌いながら、リズム楽器で合奏することによって活気が出て、ストーリーが盛り上がり楽しかった。
ピアノについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ伴奏の表現をもっと工夫できたらよかった。 ・みんなの前でピアノを弾くのは緊張し、ピアノを弾くことに気を取られた。 ・その場に合ったピアノ伴奏力を身につけたいと思った。 ・楽しい雰囲気だったのでリラックスしてピアノが弾けた。 ・途中、不意にピアノだけを弾いて雰囲気を出すことができたが、もっと自由に弾けるようになりたい。
発表について 準備, 練習, 協力	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで集まる時間がなかなか取れなかったが、みんなが協力し、積極的に取り組めた。 ・初めはスムーズに決まらずどうしたらよいか悩んだが、ストーリーが決まると、振り付けはみんなでどんどん決まっていた。仕上げをもっと工夫すればよかった。 ・衣装の工夫、小道具の準備に時間がかかったが協力して出来上がったのでよかった。 ・ストーリーと衣装の創作に思った以上苦労した。 ・小道具をそろえ、アイデアを出し合ってストーリーの雰囲気を出せて良かった ・リーダーを中心に一人ひとりのアイデアを出し合って協力でき、練習の時間をみんな守り、ストーリーの内容も濃いものができたと思う。 ・みんなで協力できたからこそ、思っていたより本番にうまく発表できたと思う。 ・班のみんなでストーリーを作り、みんながイメージしながら役になりきって練習したので、自分たちの思いが伝わった気がした。 ・歌うときみんなが自然に手拍子をしてくれて盛り上がった。
気持ちの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表をとおしてみんなの一員になれた気持ちでした。 ・人前での発表には抵抗があったが、発表の間に自然と笑顔になっている自分に気づいた。 ・最初は恥ずかしかったが、みんなの笑顔からパワーをもらったかなと思う。
今後への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・本番は緊張してせりふを忘れてしまった。反省点を生かして今度は堂々とやりたい。 ・毎朝、練習してうまくできたのに、本番で全然うまくいかず、悔しかった。もう1度機会があったらやりたいと思う。 ・今度は子どもたちに楽しんでもらえるものを作りたいと思った。

4) 考察

アンケートの結果から、この活動の学生の学びを以下のようにまとめた。

まず、創作音楽劇あそびの発表を通して、ほとんどの学生が発表を「楽しみ」、「興味・関心」を持ったという積極的な回答をした。学生は表現する楽しみ、人前で演じる楽しみ、協力して創作する楽しみなど、音楽表現の楽しさを味わったといえる。また創作など苦手な活動とし、人前で表現することに抵抗のある学生も、次第に積極的な気持ちへと心理的な変化も起こり、表現の楽しさを実感できたことは、自信につながっていくものであり、この活動の利点でもあるといえよう。

次にストーリーに合った曲想、音、音色の工夫、楽器の組み合わせ、楽器の鳴らし方によって異なる音色の発見をし、達成感を得た学生の様子も窺えた。また表現手段として、ピアノ伴奏法による、より効果的な伴奏法に対する向上心や即興表現への関心、意欲も見られた。ピアノ伴奏については、ピアノ技法と連携して指導していきたいと思う。

最後に、グループの話し合いや準備、練習を重ね、表現のための工夫をした学生の姿が挙げられる。協力し、他者のアイデアや表現の違いを認め合う姿勢を学び、発表で練習の成果が発揮できたグループが見られる、一方、なかなか話し合いがまとまらなかったり、練習の成果が発揮できず悔しい思いをしたグループや学生も協力して作り上げていく表現の楽しさを実感し、もう一度やってみたいという前向きな姿勢が表されている。発表会で演じた結果や表現活動自体がうまくいくことだけが目的ではなく、そこ至るまでに積み重ねていく過程を重視したいと思う。検討課題として、項目の「満足感」については、学生の満足だけでなく、現場でどのように生かしていけるか、子どもの発達段階を意識した表現活動として向上できる指導法を探りたいと思う。

VI. 授業のまとめとして

最後の授業に以下のショートレポート提出を課題とした。

質問：授業で行った種々の音楽表現で学んだことを述べてください。また将来、保育の現場でどのように生かしたいと思いますか。

この際、授業のねらい「歌唱の基本となる発声、音程感、リズム感、ハーモニー感を学び、子どもの真実なこころを育む子どもの歌のレパートリーを広げること、さまざまな音楽表現力を習得し、保育の現場で展開できる創造性を養うこと」を挙げた。学生の記述から抜粋を次に紹介する。

学生A 「音楽Ⅰ」の授業を通して、協調性やハーモニーの大切さを学んだと思います。なぜならば、みんなで一緒に歌ったり、歌に合わせた振り付けを考えたりすることで、音楽を通じて心を合わせることができたと思うからです。みんなで歌っているときに、倍音が聞こえるほどきれいに調和することはなくても、決して一人では感じるることのできないハーモニーを感じ

ることができました。相手の音程を注意して聴いて自分が歌う、などといった、相手と心を通わせ、協力し合いながら歌うことの大切さが良く分かった気がします。その際の“みんなで一緒に”ということがとても良かったのではないかと感じました。また授業で歌った子どもの歌、あそびうた、わらべうたは、幼稚園の頃に歌った記憶のある歌やどこかで聞いたことのある歌も多く、何だか幼少期に戻ったような気分になり、楽しんで授業を受けることができました。授業で歌ったこれらの歌や創作音楽劇あそびのグループ発表の経験をとおして、将来子どもたちに、私が感じている音楽の楽しさを教え、好きになってもらうといった基本的なことから、相手を聴いて歌うことをとおしてコミュニケーション能力や協調性を養ってもらいたい、子どもの持っている創造性をより引き出してあげたいと考えています。そのために日常の中で歌を自然に取り入れ、私が考えているこれらのことを実行するために生かしたいと思っています。個人の力を伸ばすのではなく、私がこの授業で良かったと感じた“みんなで一緒に”ということ大切に、合唱や合奏に生かしていきたいと思いました。

学生B 「発声練習や輪唱、擬音語を使った「きつねとたぬきの」の二部合唱（ぼんぼんぼんぼん…こんこんこんこん…）の単純なリズムとハーモニーを通して表現のおもしろさを学びました。「すうじの歌」では歌詞には書いていない擬音語を考える時間がありました。えんとつは「モクモク」、がちょうは「ガーガー」、赤ちゃんのおみみは「びくびく」など歌詞から連想されるものを考えたり、イメージ力をつけること、イメージを広げてリズムに合わせて擬音語を歌ったりしたことは私にとって新鮮でした。このような歌い方は、子どもの創造性にもとても大事なことだと学びました。子どもたちと将来歌う時は、子どもたちの反応を聞いたりして、音楽の楽しさを伝えたいと思いました。

学生C ただ歌うだけでなく、心と身体全体で音楽を感じることを、みんなで気持ちを合わせて歌うことの楽しさを学びました。それが楽しいとか音楽表現だけのことではなく、心とからだに関わり、子どもの発達にも大切だと思いました。授業で歌った歌を将来、子どもたちに季節を感じさせたり、ことばが話せない人、通じない人とも心を通わせる手段として生かしていきたいと思っています。グループ活動を通して、人の意見をただ否定するのではなく、共感し認めるといった姿勢が大切であると感じました。それぞれの表現が違って、お互いの表現を尊重しあう経験を重ねることや子どもに共感し、子どもの気持ちに寄り添う姿勢が重要だと感じ、将来につなげたいと思いました。

学生D 「わらべうた」だとは知らず、子どもの頃、「○○ちゃん、あそぼー（レドレー、ドドレー）」や「どれにしようかな」「もういいかい、まだだよ」などと歌って友だちと遊んでいました。これらの「二音歌」「三音歌」と呼ばれる楽譜を見て簡単なので驚き、親しみを感じました。今までわらべうたは怖いイメージがありましたが、このように遊びながら歌ったわらべうたや手遊びなどによって子どもたち自身が歌いたい気持ちになり、楽しく遊べる環境を作り出していきたいと思っています。

Ⅶ. おわりに

今回の報告は、不十分ながらも「歌う」ことの中から生まれる学生の音楽表現の体験から、各自さまざまな学びを生じ、歌唱に対する意識の向上と表現の幅を広げる意欲を持てたことを明らかにした。音楽の表現技術は短期間に習得できるものではなく、学んだ内容を実践しながら力をつけていく。ゆえに限られた時間内に多くの音楽要素を組み込み、十分な実践に至らず授業を終えたが、大部分の学生が「歌うこと」の楽しさを実感したことによって、子どもたちにも伝わる音楽を提供することにつながると考えている。

しかしながら、少人数に見られた音楽表現を楽しめない、あるいは表現活動に満足できなかった学生に対する指導法を見出す必要がある。保育の音楽実技だからこそ「表現」を通して共感しながら音楽する心を育てていけるのだと思う。音楽表現技能を学ぶことにおいて、他者との繋がり、調和が大切な鍵となり、さらにコミュニケーションへの営みへと結ばれる。保育者養成校の音楽教育は、学生の表現する心を大切に、創造性を伸ばすことが大きなテーマの一つであり、子どもを育てる音楽をする保育者を社会に送り出す使命を帯びているといえよう。

純心における「いのちを育む知性と愛」という教育理念のもと、生活学科こども学専攻の教育の特色としている「人間愛に満ち」「子どもを理解し」「確かな実践力」を持った地域の期待する保育者を育てていけるよう今後、課外活動「こどもバンド」における学生の学びについても分析し、音楽表現の創意工夫に取り組んでいきたいと思う。

参考文献

- 大場牧夫『表現原論 幼児の「あrawし」と領域「表現」』萌文書林, 1996年
小島律子・澤田篤子『音楽による表現の教育－継承から創造へ－』晃洋書房, 1998年。
小泉文夫『音楽の根源にあるもの』平凡社, 1994年。
コダイイ芸術教育研究所編『わらべうた・二声三声歌唱集うたはよいものだ』全音楽譜出版社, 1972年。
佐藤学・今井康雄『子どもたちの想像力を育てるアート教育の思想と実践』東京大学出版, 2003年。
吉野幸男(代表)『あたらしい音楽表現 幼児音楽教育の基礎』音楽之友社, 1996年。

注

- 1) 「幼稚園教育要領」第2章ねらい及び内容〈表現〉
- 2) 佐藤学・今井康雄『子どもたちの想像力を育てるアート教育の思想と実践』東京大学出版, 2003年, 23頁。これを佐藤はアートの経験と呼ぶ。佐藤はアートの教育の目的は、「子どもの創造性と想像力を形成し、〈もう一つの自己〉と出会い〈もう一つの現実〉と出会うこと」であり、アートの教育に必要なことは「〈美術〉(図画工作)でアートを教え、〈音楽〉でアートを教えること」とする。すなわち、アートを通常の芸術よりも広義に定義し、「人が想像力によって〈もう一つの真実〉〈もう一つの現実〉と出会い対話し、その経験を

表現する創造行為の〈技法〉のすべてを示している」ものとして捉えている。

- 3) 「音楽Ⅰ（保育表現技術 音楽）シラバス」2011年参照。および授業用ガイダンス資料より。
- 4) 吉野幸男他『幼児音楽教育の基礎 あたらしい音楽表現』音楽之友社，1996年，15頁および105－109頁を参照。

